

三重県気候変動適応センター 事例紹介

～国民参加事業の成果と今後の展開～

三重県気候変動適応センター
(一般財団法人 三重県環境保全事業団)



国民参加事業の内容

2019年度
(1年目)

県内の気候変動影響と適応事例のヒアリング
農林水産、自然、健康、防災分野の20件

2020年度
(2年目)

水産物への影響予測【準備】
影響予測のための情報収集と予測方法の検討
主要な水産物についての知見の整理（海水温との関係等）

【参考】 国民参加事業（2年目）として設定した2課題

課題1 三重県沿岸域における海水温の変化に伴う水産物の養殖適地変化

課題2 三重県沿岸域における海水温の変化に伴う養殖水産物への悪影響を
及ぼす赤潮及び魚病リスクの増大

2021年度
(3年目)

水産物への影響予測【実施】
黒ノリ、真珠（アコヤガイ）、マダイについての
詳細な予測方法の決定と実施

ヒアリング対象（1年目）

農林水産分野

米（※）、イチゴ（※）、茶、キノコ、乳牛、
黒ノリ（※）、魚類養殖、ブリの稚魚

※ 研究所と生産者に聴き取り

自然分野

ギフチョウ、ネコギギ、アカウミガメ、干潟の生き物

健康分野

市民プール、小学校の授業

防災分野

自主防災協議会、災害ボランティア支援センター、
みえ防災・減災センター

海水温の変化に伴う水産物への影響予測（2, 3年目）

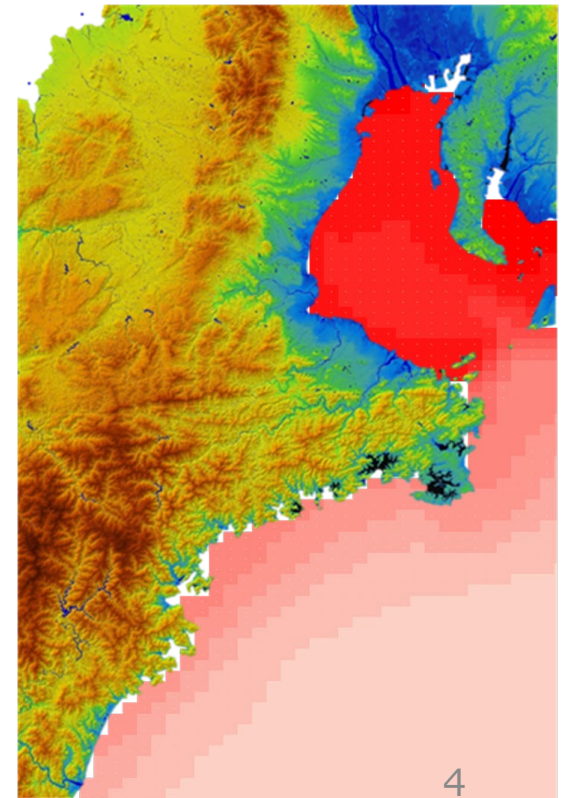
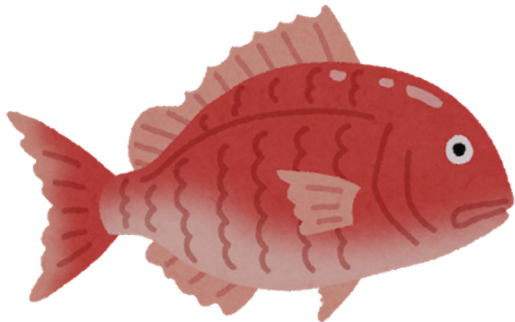
将来の海水温上昇による県産水産物への影響予測（2020～）

県水産研究所、県地球温暖化対策課とともに、
海洋研究開発機構（JAMSTEC）、国立環境研究所、三重大大学等の
協力を得て実施

対象水産物：黒ノリ、真珠（アコヤガイ）、マダイ

対象期間：21世紀中頃（2041～2055年）

21世紀末（2086～2100年）



海水温の上昇予測

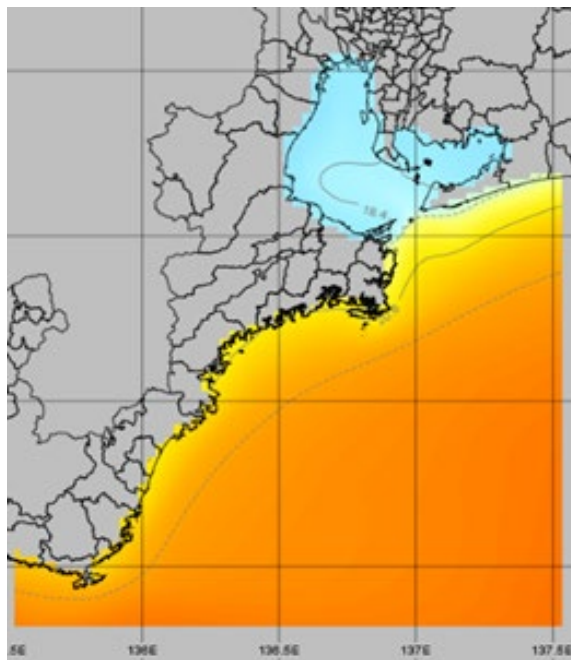
JAMSTECから提供を受けた海水温データを地図上に表示

※ 水産物への影響予測に直接利用したわけではないが、
一般向けに気候変動の影響を説明するために有効。

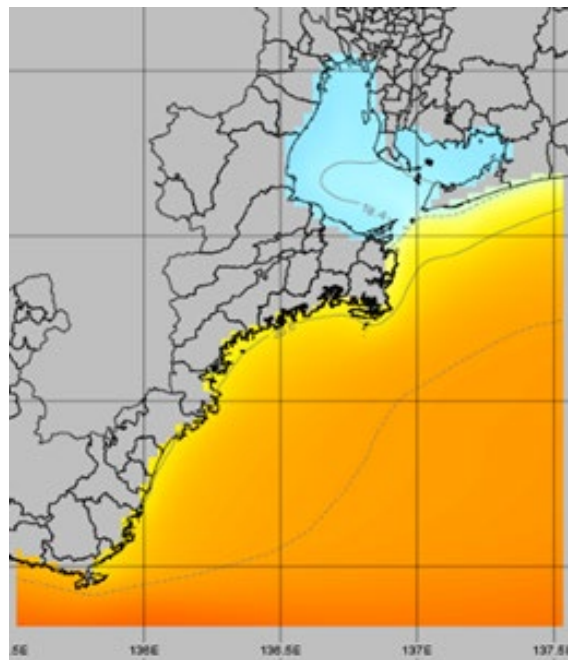
三重県周辺海域の年平均水温の予測（水深0.5m）



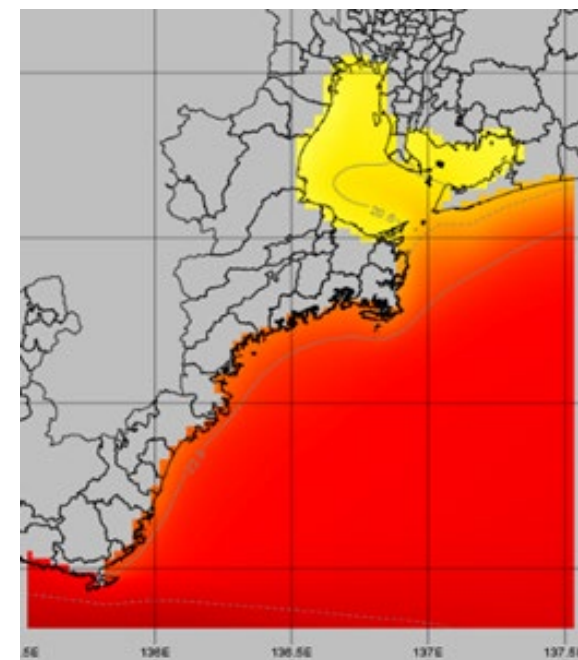
基準期間（1991-2005年）



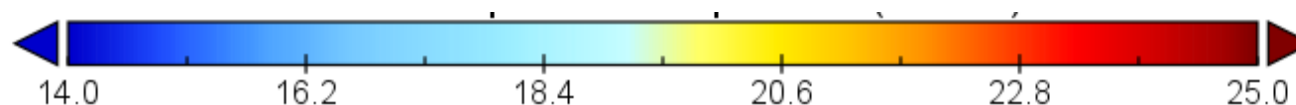
21世紀中頃（2041-2055年）
（RCP8.5シナリオ）



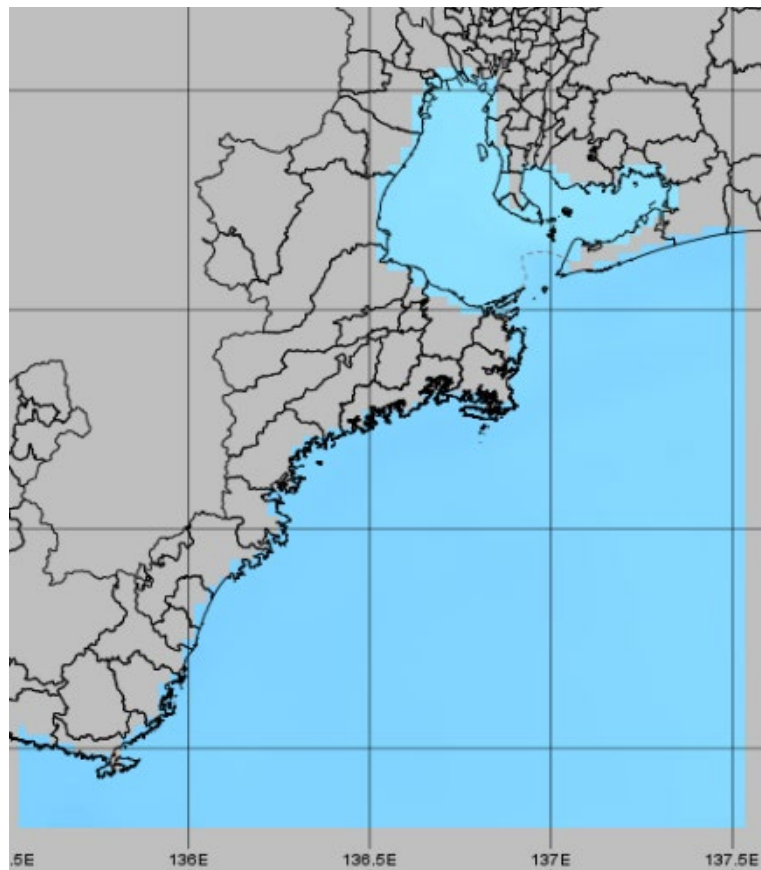
21世紀末（2086-2100年）
（RCP2.6シナリオ）



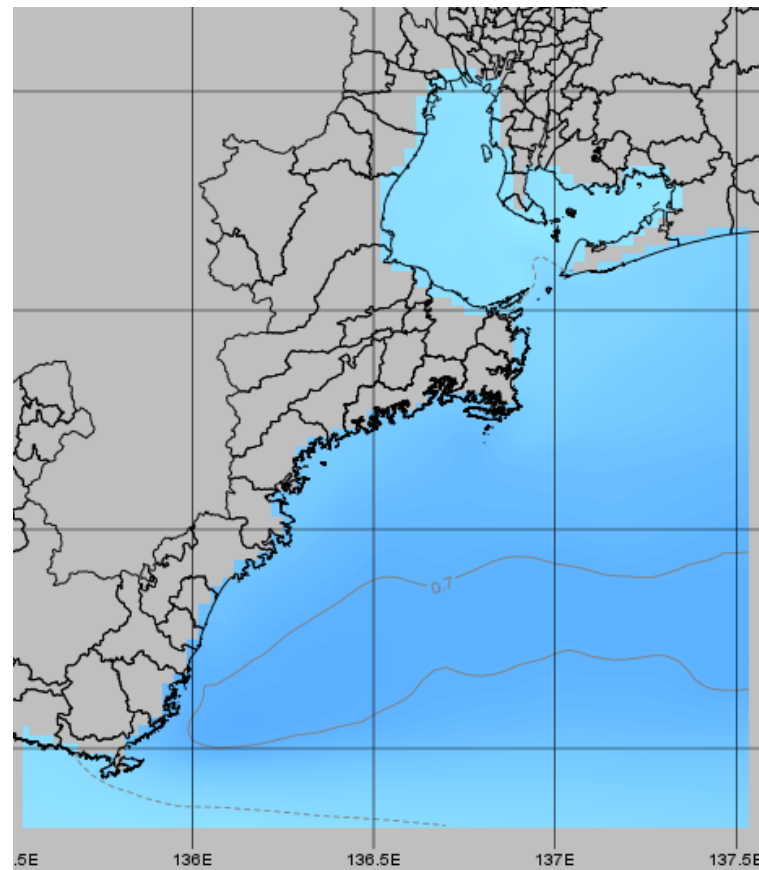
21世紀末（2086-2100年）
（RCP8.5シナリオ）



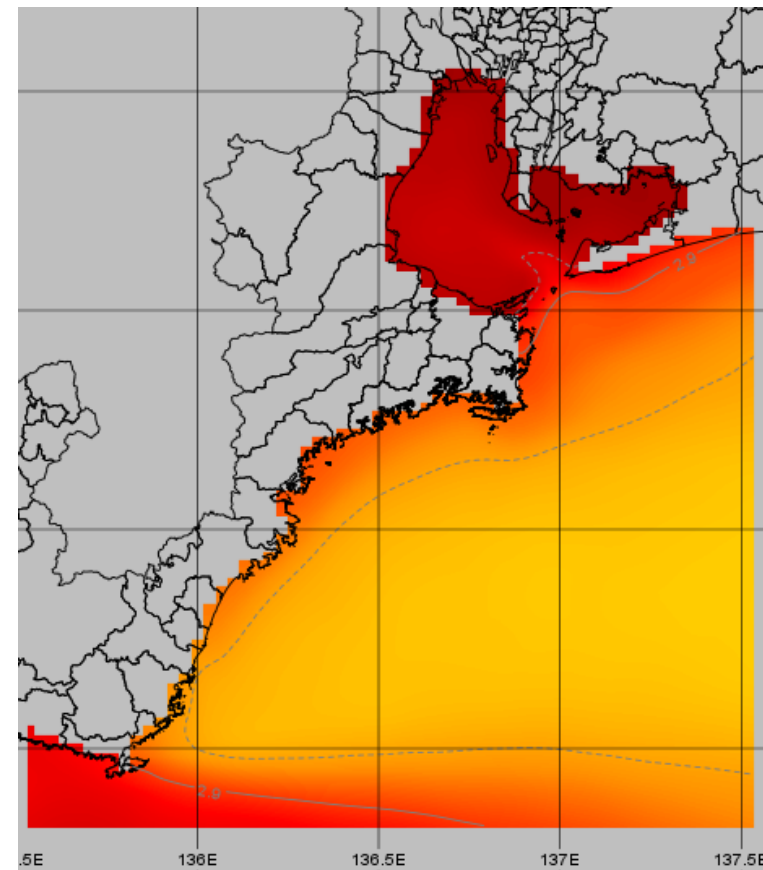
三重県周辺海域の年平均水温の予測（水深0.5m 基準期間からの水温の上昇幅）



21世紀中頃（2041-2055年）
（RCP8.5シナリオ）



21世紀末（2086-2100年）
（RCP2.6シナリオ）



21世紀末（2086-2100年）
（RCP8.5シナリオ）



国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）による「日本近海域2kmデータセット：FORP-JPN02」をもとに作図

黒ノリ, 真珠(アコヤガイ), マダイへの 影響評価

21世紀中頃（2041-2055年）の予測 【RCP8.5】

21世紀末（2086-2100年）の予測 【RCP2.6、RCP8.5】

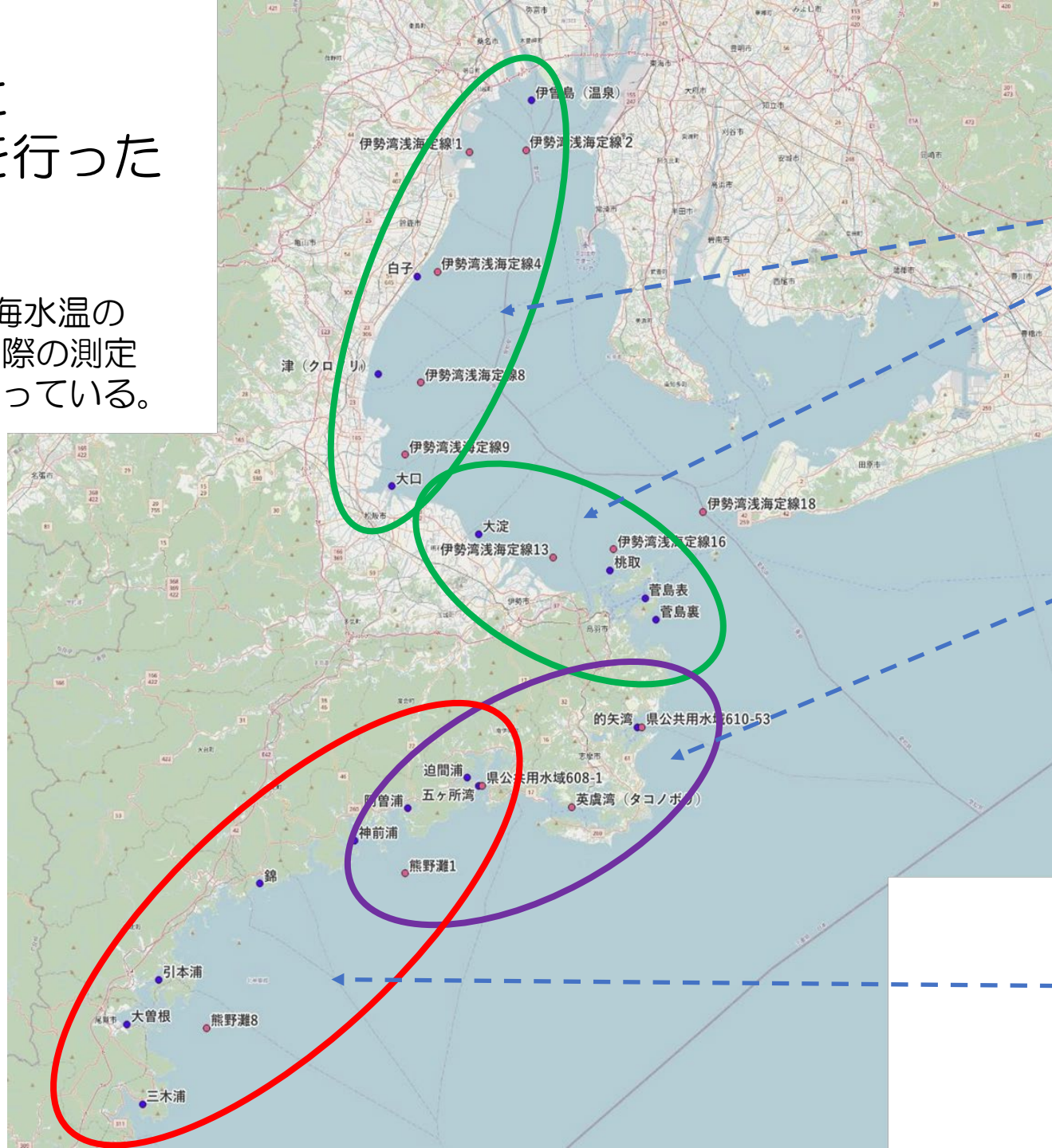
※ 以下に例示するグラフは、21世紀末（2086-2100年）のRCP8.5シナリオによる予測結果

水産物と海水温との関係（予測を行った項目）

水産物	予測項目
黒川養殖	① 養殖開始時期：水温が23℃に低下する時期 ② 養殖終了時期（養殖可能期間）：水温が23℃から最低水温を経て、最低水温から+2℃上昇するまでの日数 ③ 生長（収量）への影響予測：養殖開始から水温が20℃になるまでの日数及び水温が再上昇する割合 ④ クロダイ等による食害の予測：養殖開始から水温が11℃になるまでの日数 ⑤ 病害の影響の予測：養殖開始から水温が18℃になるまでの日数
真珠養殖（アコヤガイ）	① へい死の可能性（水温の上限）：水温が30℃以上になる日数 ② 避寒の必要性：水温が15℃未満になる日数 ③ 赤変病のリスク対策：水温15℃を下回ってから、15℃との差（負の値）の積算水温が100℃を超えるまでの日数
マダイ養殖	① 養殖適水温の日数（その1）：水温20～28℃の日数 ② 養殖適水温の日数（その2）：水温20～26℃の日数 ③ へい死の可能性（水温の上限）：水温が30℃以上となる日数 ④ 将来の養殖適地の検討

水産物の漁場と 海水温の予測を行った 地点 (※)

※ JAMSTECによる海水温の
予測値について、実際の測定
値によって補正を行っている。

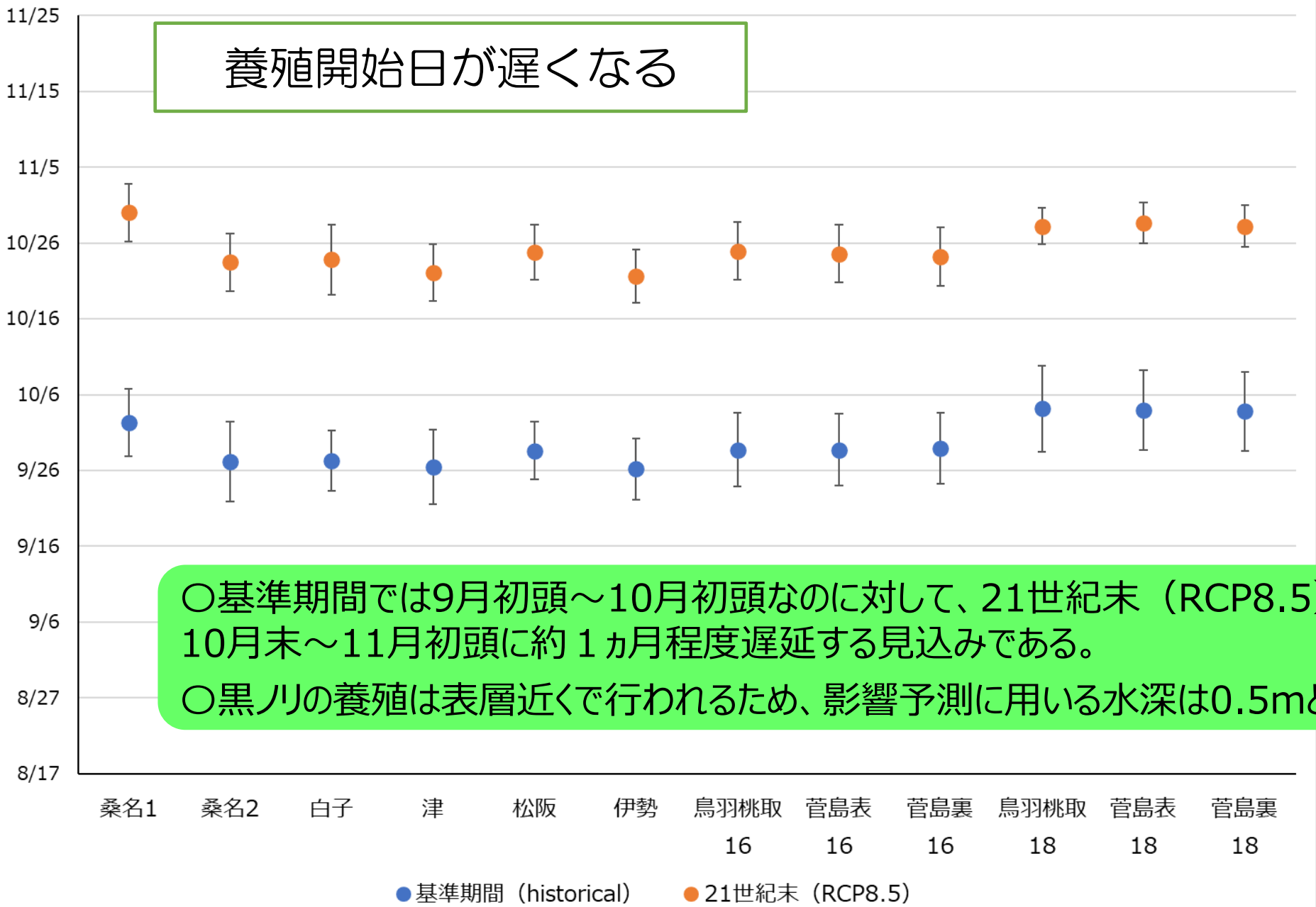


黒川
予測箇所 8地点
水深 0.5m

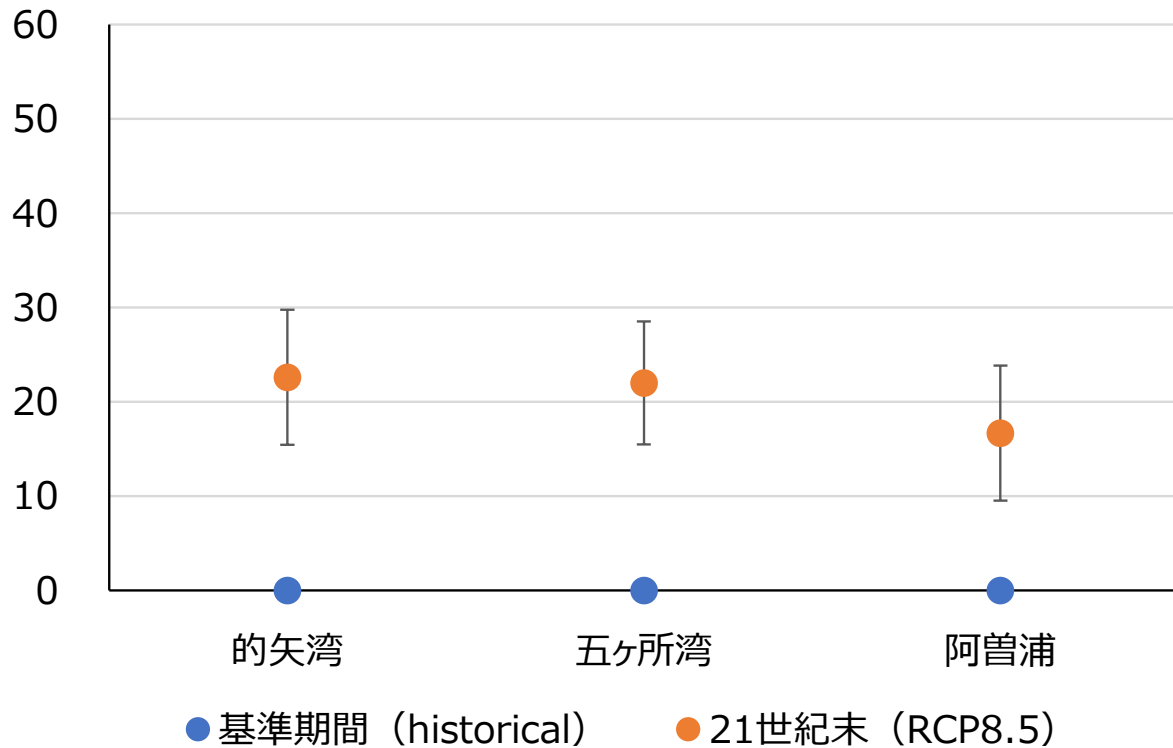
真珠 (アコヤガイ)
予測箇所 4地点
水深 0.5m、
1.875m、4.125m

マダイ
予測箇所 6地点
水深 0.5m、
1.875m、4.125m、
7.5m、12.25m

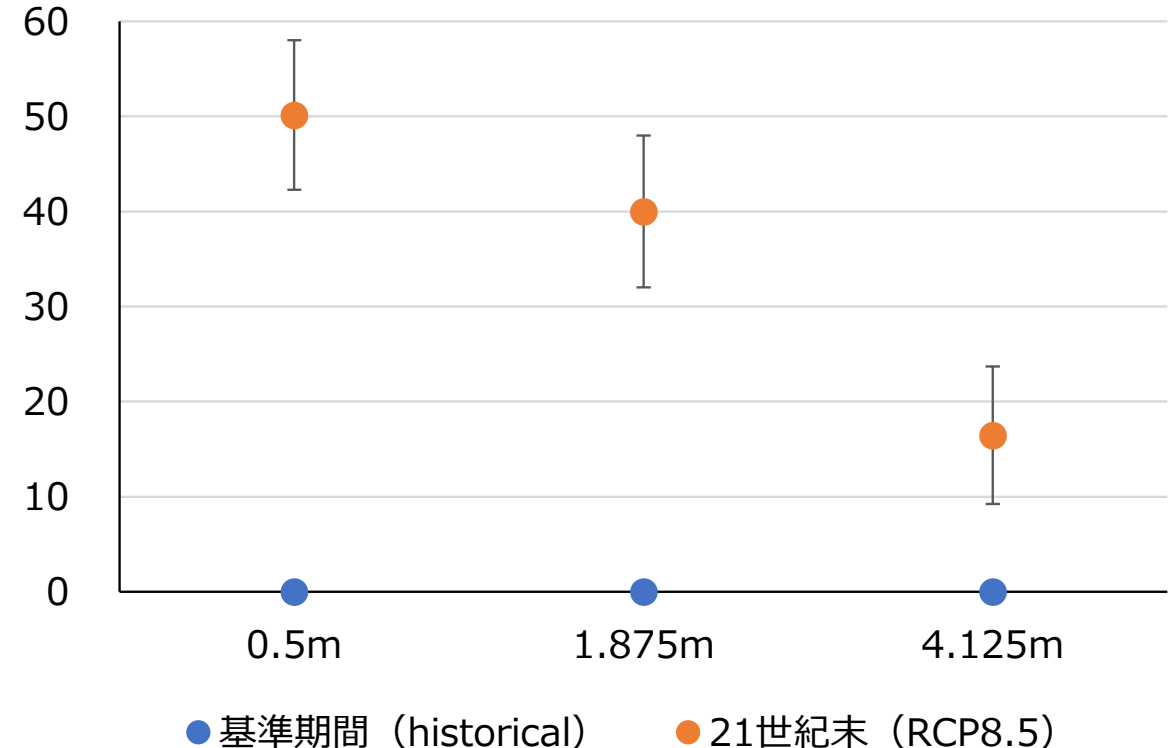
黒ノリ 養殖開始日（養殖適水温(23℃)に下がる時期）



真珠 アコヤガイの生存上限水温を超える年間日数（水温30℃以上）



水温が30℃以上になる日数_水深0.5m（的矢湾、五ヶ所湾、阿曾浦）

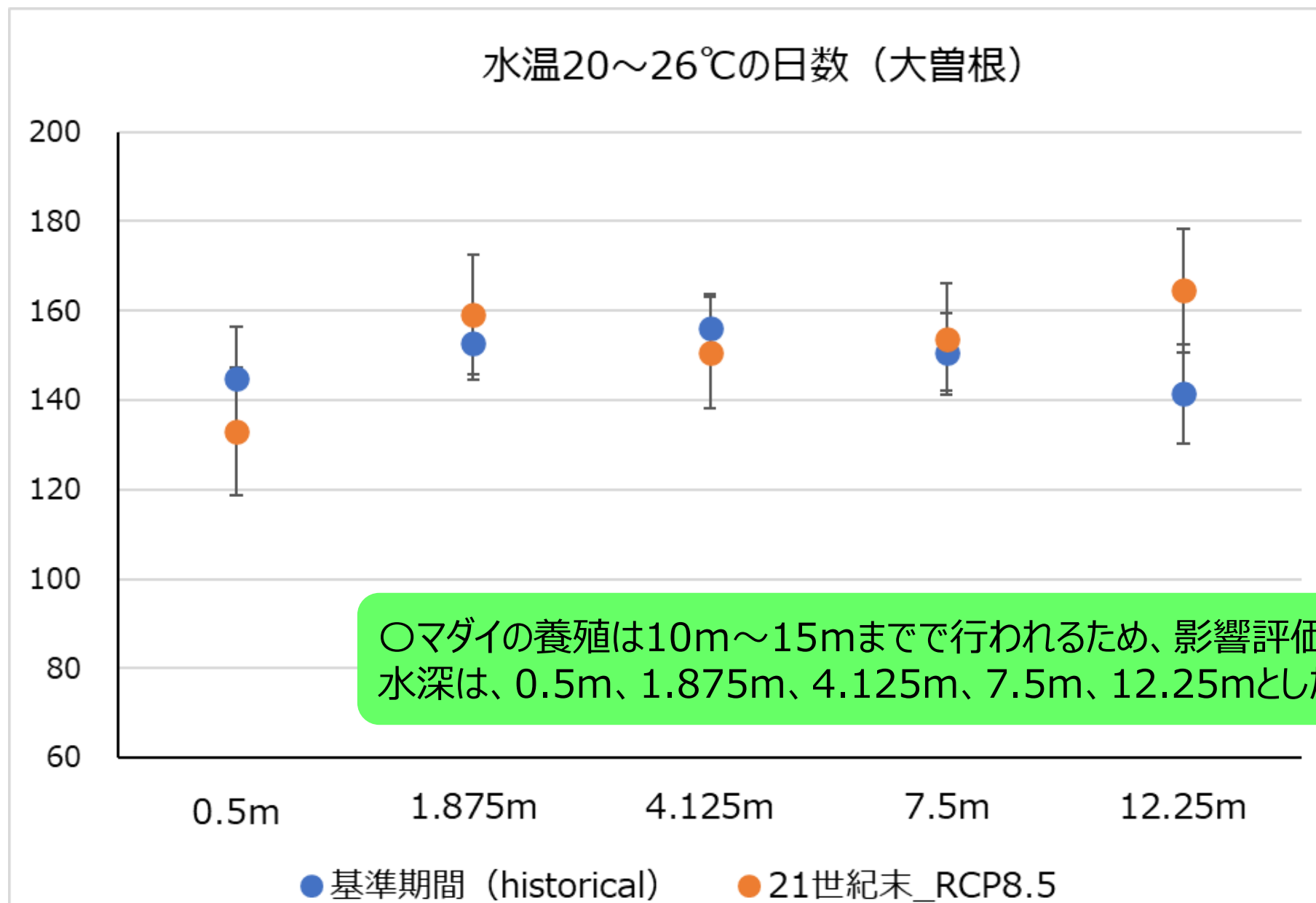


水温が30℃以上になる日数_水深0.5m、1.875m、4.125m
（英虞湾（タコノボリ））

○すべての海域において、基準期間では0日なのに対して、21世紀末（RCP8.5）では、水深0.5mで50～20日程度増加する見込み。

○真珠（アコヤガイ）の養殖は水深2m付近までで行われている。高水温対策として深吊り（5m付近）が推奨されているため、影響予測に用いる水深は、0.5m、1.875m、4.125mとした。

マダイ 養殖適水温の日数（20℃から26℃の範囲となる年間日数）



水産物への影響予測結果について ～三重県水産研究所の意見～

※ 三重県気候変動適応センターによる要約

黒ノリ

- 漁期の短縮化、養殖序盤における水温降下の不安定化（水温降下の鈍化や再上昇）、病症害や食害の発生など、生産性の低下につながる現象が予測された。
- 温暖化に適応した**養殖技術や品種の開発**をはじめ、予測によって示唆された漁場別特性も考慮し、収量確保にかかる**適切な漁場選択**についても検討する必要がある。



水産物への影響予測結果について ～三重県水産研究所の意見～

※ 三重県気候変動適応センターによる要約

真珠（アコヤガイ）

- 育種による高水温耐性の高いアコヤガイの作出、沖合など水深の深い海域での深吊り等の養殖技術の開発が必要になる。
- 21世紀末(RCP8.5)の場合、英虞湾では、アコヤガイが、赤変病にかかりにくくするための低水温処理(※)ができなくなる。

※ 水温が15℃より低い漁場で一定期間アコヤガイを育てること

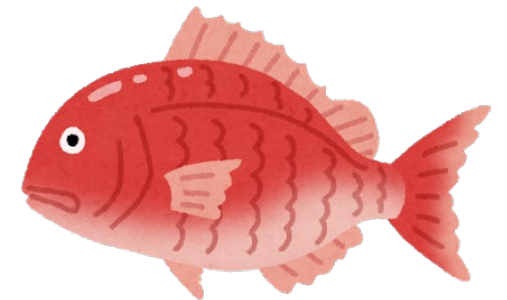


水産物への影響予測結果について ～三重県水産研究所の意見～

※ 三重県気候変動適応センターによる要約

マダイ

- 海面では水温が上昇する。マダイのへい死が増える恐れがある。
- 一方、1.875m以深では養殖適水温の日数が横ばいか又は増加するとの予想である。
- 高水温化への適応策としては、マダイ等の高温耐性のある品種の作出等が考えられる。



国民参加事業の成果の活用

- プレゼンテーション資料

講演会での発表用資料として利用

- 展示用パネル

図書館など公共施設での企画展示やイベント出展に利用

- 啓発冊子

- リーフレット

- ウェブサイトへの掲載

プレゼンテーション資料

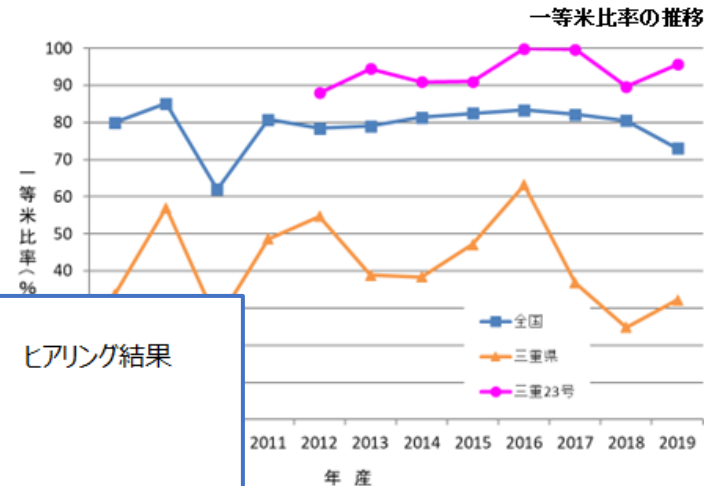
ヒアリングした事例を
事例毎に1~2枚の
パワーポイントにまとめて
講演会などで使用。

米（夏の暑さに強い新しい米「結びの神」）

ヒアリング結果

【三重県農業研究所】

- 夏季の高温で県内の一等米の比率が低下している。
- 高温対策として新品種（三重23号）を開発した。
- 三重23号の作付け面積、生産量は順調に伸びている。
- 三重23号は「結びの神」のブランド名で販売さ



米（夏の暑さに強い新しい米「結びの神」）

ヒアリング結果

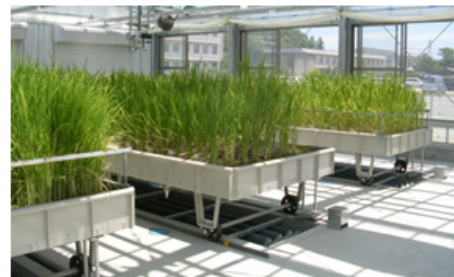
【生産者】

- 夏季の高温でコシヒカリの生産に影響が出ている。
- 三重23号は高温に強く、食味も良い。強い風にも倒れにくい。
- 今後の気温上昇に備えて、さらなる品種改良を期待している。

冷めても美味しいぞ。
おにぎりにピッタリ
じゃ。



高温登熟性試験



温室内の高い気温での稲の生育を確認する



展示用パネル

気候変動の影響と適応策

水稻

農業・林業・水産業分野 | 農業

協力：農研・食品産業技術総合研究機構

影響の要因

気温の上昇、CO₂濃度の上昇、強雨の増加、降水量の減少など様々な要因により、水稻の収量や品質に影響を受ける地域が多い。

現在の状況と将来予測

現在、全国で品質への影響が出ているほか、一部地域では収量減少などの影響が生じている。特に、気温の上昇による品質の低下が最大の影響で、白未熟粒や糊粉粒の発生による一等米比率の低下などの影響が生じている。

将来、コメ収量は全国的に今世紀半ば頃までは全体として増加傾向にあるものの、21世紀末には減少に転じるほか、品質に関して高温リスクを受けやすいコメの割合が特にRCP8.5シナリオで著しく増加することが予測されている。

適応策

気温の上昇に対する適応策として、栽培時期の変更など作物が高温に曝される事を回避する方法、管理方法の改善や品種の転換など作物の高温に対する耐性を高める方法、病害虫の防止など気候変動により増加する病害や害虫を防ぐ方法に大別できる。

影響	品質の低下	収量の減少	病害虫の増加
分類	栽培時期の変更	管理方法の改善	他品種の導入・転換
	田植え時期の見直し ■ 直播 ■ 早めの刈り取り	■ 土壌・施肥管理 ■ 適切な水管理	■ 高温耐性品種や晩生品種の導入 ■ 新品種の開発・導入 ■ 雑草管理 ■ 薬剤防除

米（夏の暑さに強い新しい米「結びの神」）

ヒアリング結果

【生産者】

- ・夏季の高温でコシヒカリの生産に影響が出ている。
- ・三重23号は高温に強く、食味も良い。強い風にも倒れにくい。
- ・今後の気温上昇に備えて、さらなる品種改良を期待している。

冷めても美味しいぞ。
おにぎりにピッタリ
じゃ。



高温登熟性試験



温室内の高い気温での稲の生育を確認する

講演用のパワーポイントのスライドを印刷・ラミネートして、展示用パネルを作成。
パネルと国立環境研究所の「インフォグラフィック」を並べて展示。
地域の具体的な事例と科学的な知見の両面から気候変動影響と適応についての理解を促す。



啓発用冊子

20件のヒアリング結果を取りまとめた冊子を発行。
(A4版46ページ)
2019年国民参加事業（1年目）の成果物。
講演会、企画展示、イベント等で配布。
公立図書館に寄贈。
(郷土資料等として来館者の利用に供する。)



03

炭疽病に負けないイチゴ「かおり野」
～研究者の視点から～

三重県農業研究所

イチゴの生産を脅かす炭疽病

イチゴの生産にとって、炭疽病は大きな脅威です。イチゴの苗をつくる時期（6月から9月）に、発生する病気で、感染力が強く、せっかく育てた苗が全滅することもあります。炭疽病の被害は、1990年頃から近畿、中国、四国、九州等、日本の南西部の暖かい地域全域に広がりました。主に農薬の使用や、栽培法・栽培環境の転換などによる対策が取られてきましたが、効果は安定せず、近年の温暖化が原因と考えられる長雨や台風の影響もあり、現在も深刻な被害が発生しています。

また、イチゴは8月中旬から9月中旬に気温が高くなると花芽の形成が遅れ、1ヶ月以上収穫が遅れることにより、クリスマスケーキなど需要の高い12月に出荷できないことがあります。

新品種の県内外で

過年の収穫量が多いこの時期で酸味が少ないなどから、現在、三重約3割を占めるほどになつた、静岡、熊本、福岡おり、生産者の数は年々増えています。また、上記の特長に加えて、暖房温度をこども生産者にとっては国内のイチゴ主要産地「かおり野」が広がった病に強く、早くからたくましく評価されたと思

新しい品種の開発

そこで、三重県農業研究所では、炭疽病への抵抗性があり、高温でも花芽の形成が遅れにくい「かおり野」（商品名は「かおり野」）を開発しました。1990年に新しい品種の開発に着手し、18年後の2008年に品種登録出願を行いました。

『かおり野』は、他の品種に比べて花が咲く時期が早く、11月中旬から収穫を開始できます。イチゴの需要が高まるクリスマスやお正月に果実をたくさん収穫することができるので、生産者の収益改善にも役立っています。

気候変動影響の

炭疽病を引き起こすのは、雨や風上かん水が夏の強い風雨、夕立、台風などです。

『かおり野』は、炭疽病が、気象条件等によって今後、気候変動により、大雨が頻発することがあ

FIELD WORK 2019

影響が出ないとはいえません。夏のさらなる高温は、花芽を形成する時期を遅らせ、収穫開始時期についても影響する可能性があります。『かおり野』の開

発には約18年かかりました。今後の気候変動に留意しながら、栽培法の工夫や品種改良など、常に次の一手を考えていく必要があると思います。

イチゴの生産者数推移 (2009～2018)

年次	累計 (件数)	県内 (件数)
2009年度	100	20
2010年度	150	30
2011年度	200	40
2012年度	300	50
2013年度	400	60
2014年度	500	70
2015年度	600	80
2016年度	700	90
2017年度	800	100
2018年度	900	110

「かおり野」の生産者数状況

※備考：各年度内に登録料を納入した生産者数に該当する(登録料は含まない)

2019年3月31日現在

私たちの暮らしと気候変動 フィールドワーク 2019 05

20

リーフレット

私たちの暮らしと 気候変動

2019年国民参加事業
(1年目)の成果をもと
に、作成。

これからどうなる 三重の海とさかな

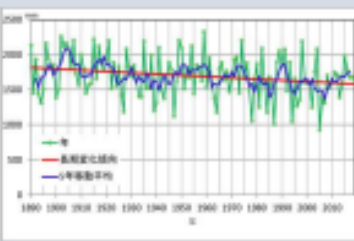
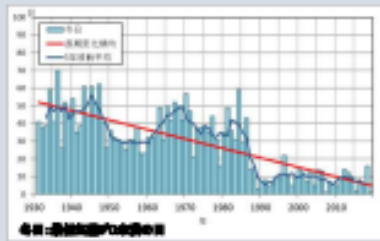
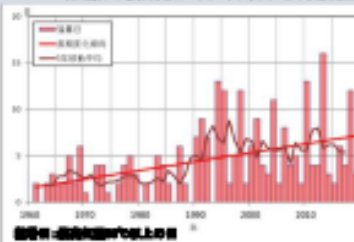
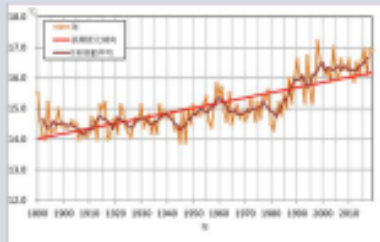
2020年、2021年国民
参加事業(2,3年目)
の成果をもとに、作成。

私たちの暮らしと気候変動

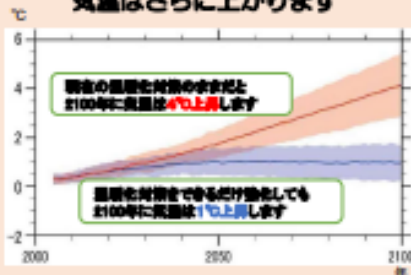
～いま、三重県で起きていること、これから起きること～

三重県の気候が変化しています

気候庁、気象庁、気象庁(データは気象庁の気象データ)



気温はさらに上がります



気象庁発表の気候変動(1880～2018年平均)の
データと気象庁発表の気候変動のグラフを基に

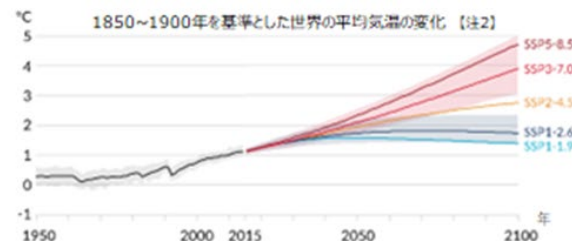
気温以外の变化も心配です

- 日本近海の海水温は、過去100年で1.14℃上昇しています。
- 2100年に海面水位は最大1.1m上昇することが予測されています。
- (過去数十万年の間、280ppm以下だった)大気中の二酸化炭素濃度が400ppmを超えて、毎年、最高値を更新しています。

これからどうなる 三重の海とさかな

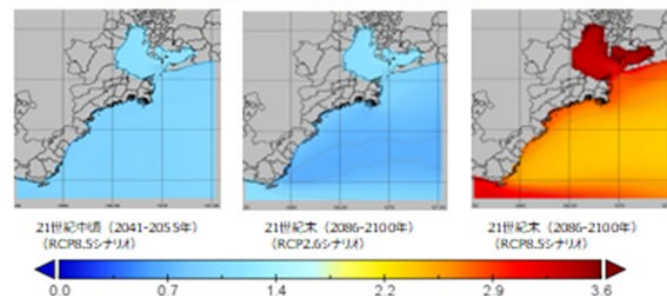
気候変動が進むと養殖水産物にどんな影響があるのか

1850年から1900年に比べて、現在、世界の平均気温は1.07℃上昇しています。21世紀末に向けて、気温はさらに上昇すると予測されています。【注1】



また、気温だけでなく、海水温も上昇すると予測されています。現在のまま、温室効果ガスを出し続けた場合、21世紀末に三重県の沿岸の海水温は、1991年から2005年と比べて、2℃から3℃以上、上昇すると予測されています。

1991～2005年を基準とした三重県沿岸の平均水温の変化(上昇幅)【注3】



海水温の上昇は、海の生き物に与える影響が懸念されます。そこで、海水温が上昇した場合、三重県の主な養殖水産物である黒リ、真珠、マダイにどのような影響が出る可能性があるのかを調べました。【注4】

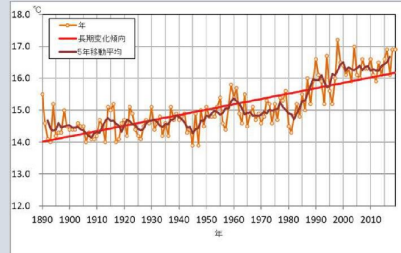
- 【注1】 ここまでが現在止は、2010年から2019年の全球平均気温のことです。
- 【注2】 IPCCの第6次評価報告書に掲載されたグラフです。5つのシナリオを想定し、将来、気温がどのように変化するかを予測しています。このまま、温室効果ガスを出し続けると、21世紀末に気温は、最大で5℃近く上昇します。厳しい対策を取ることによって、21世紀末の気温の上昇を、1.5℃から2℃までに抑えることができます。
- 【注3】 基準期間(1991年から2005年)と比べて、将来、三重県沿岸の海水温がどれだけ上昇するかを予測しています。(水深0.5m、年平均水温)国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)が作成した予測データFORP-JPM02を基に、作成しました。将来と比較できるように、基準期間(1991年から2005年)についても、将来の予測値と同じ方法で作られたデータが用意されています。RCP2.6シナリオは、厳しめ対策により、温室効果ガスの排出を大幅に削減した場合のシナリオです。RCP8.5シナリオは、厳しめ対策を取らずに、温室効果ガスの排出を続けた場合のシナリオです。
- 【注4】 このリーフレットは、主に、厳しめ対策を取らずに、温室効果ガスの排出を続けた場合、21世紀末(RCP8.5)に起きる影響を掲載しています。

私たちの暮らしと気候変動

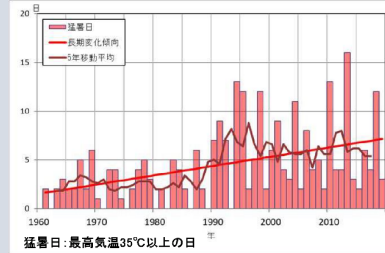
～いま、三重県で起きていること、これから起きること～

三重県の気候が変化しています

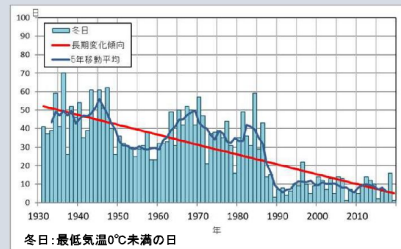
資料提供：津地方気象台（データはいずれも津市における観測結果）



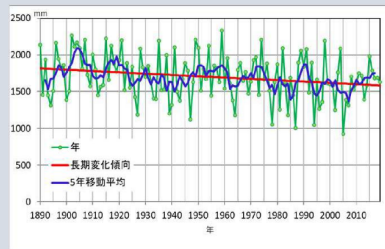
年間平均気温は
100年あたり1.67°C上昇しています



猛暑日が
50年あたり9.1日増えています

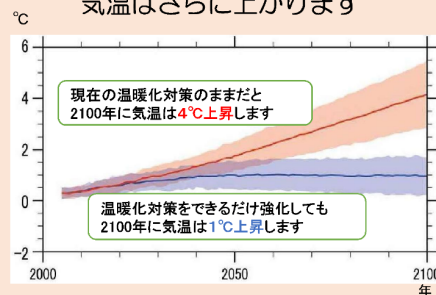


冬日が
50年あたり26.7日減っています



降水量が
100年あたり181mm減っています

気温はさらに上がります



世界平均地上気温変化（1886～2005年平均との差）
IPCC第5次評価報告書記載のグラフを加工

気温以外の変化も心配です

- 日本近海の海水温は、過去100年で1.14°C上昇しています。
- 2100年に海面水位は最大1.1m上昇することが予測されています。
- （過去数十万年の間、280ppm以下だった）大気中の二酸化炭素濃度が400ppmを超えて、毎年、最高値を更新しています。

緩和と適応 二つの対策が必要です

緩和とは？ 適応とは？



緩和

省エネルギーの推進
エコカーの普及
再生可能エネルギーの利用拡大
植林によるCO2吸収量の増加

適応

農作物の新品種の開発
海面上昇に備えた堤防のかさ上げ
エアコンの適切な使用や水分補給による熱中症対策

20世紀の100年間で、日本の平均気温は約1°C上がっています。

農業、自然災害、健康など様々な分野で、すでに、私たちの暮らしには、気候変動の影響が及んでいます。

21世紀の100年間で、気温はさらに上がると予測されています。現在の温室効果ガス削減対策のままだと4°C、対策をより強化した場合でも1°C、上昇することが見込まれています。

このため、気候変動を抑える対策（緩和）と気候変動の影響を回避・低減する対策（適応）、二つの対策を講じていく必要があります。

さまざまな分野で影響が心配されています



三重県でもすでに影響が出ています

米



夏の暑さで良いお米が出来にくくなっています。県では、暑さに強いお米「三重23号」(ブランド名「結びの神」)を開発しました。もっちりして、冷めてもおいしいお米です。



暑くても元気に育つか試験中

乳牛

乳牛(ホルスタイン)はオランダが原産です。暑くて湿気の多い日本の夏は苦手です。暑いと牛乳の生産量が減ります。受胎率が下がるため、子牛も生まれにくくなります。

ちょっと涼しいかも。



換気扇とミストが一体になった装置

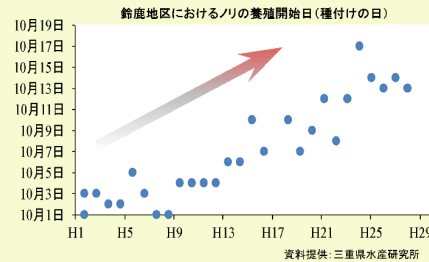
夏バテするの。



農林水産省牛乳製品統計調査より作成



黒ノリ



海水温が下がりにくく、不安定なので、黒ノリの養殖開始が遅れています。県では高い水温でも栽培できる新品種「みえのあかり」を開発しました。



岸の近くでノリの苗を育てる



沖で生長した黒ノリ

学校

松阪市の天白小学校では、2018年の夏、教室の室温が高くなったため、2日間にわたって、午後の授業を中止しました。



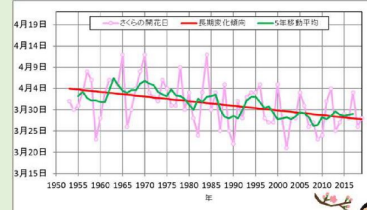
プール



名張市教育委員会では、熱中症予防のため、市民プールの利用中止基準を作りました。2019年は10回、利用を中止しました。

さくら

資料提供: 津地方気象台



津市の偕楽公園のソメイヨシノの開花日は、50年あたり5.5日早くなっています。

農林水産、自然、防災、健康への影響を調べました

三重県気候変動適応センターでは、県内における気候変動について、様々な分野の方が、気候変動の影響をどのように感じ、対策を講じているのか等について、ヒアリングを行いました。

聴き取った内容は、「私たちの暮らしと気候変動 フィールドワーク2019」として冊子に取りまとめました。

項目	対象者	ヒアリング内容
イチゴ	三重県農業研究所	夏季の高温化で、イチゴに炭疽病発生リスクが高まっている。収穫開始時期も遅くなっている。18年かけて、炭疽病に強くておいしい新品種「かおり野」を開発した。「かおり野」の生産は全国に広がっている。
お茶	元 三重県農業改良普及員	新茶の摘み取り時期が早まっている。秋から春にかけて、茶の木が休む期間が短くなっており、茶の品質が下がる心配がある。夏の水不足で、茶の木が枯れる恐れが強まっている。
きのこ	三重県林業研究所	夏場の気温が高いことで、きのこ栽培施設の空調経費が増加している。高温でも栽培可能なきのこを選定し、栽培方法を開発した。
養殖漁場	三重県水産研究所	2016年に魚病の診断件数が増加した。原因として海水温の上昇を疑い、県内4か所の養殖漁場で詳細な水温測定を開始した。過去の長期的なデータを検証したが、沿岸での海水温の上昇は確認出来なかった。海水温は年毎のばらつきが大きい。
ブリの稚魚	三重県立水産高等学校	授業の一環としてモジャコ(ブリの稚魚)の捕獲を行っている。2019年は、モジャコの成長が早く、捕獲が出来なかった。モジャコの成長の原因は、エサの量、海水温の上昇等が考えられるが、特定は困難。2017年8月からの黒潮の大蛇行の影響もあり得る。
ギフチョウ	名張市立萬原小学校	ギフチョウは人の手が入った里山で育つチョウ。開発や里山の荒廃で、ギフチョウの生息に適した環境は減少してきた。桜の開花が早まるのと同様に、ギフチョウの羽化も早くなっている。
ネコギギ	鈴鹿高等学校	絶滅が危惧される淡水魚ネコギギの保護と繁殖に取り組んでいる。人工的な繁殖は着実に成果を上げているが、ネコギギの生息環境は極めて脆弱。豪雨による土砂流入がネコギギの生息を脅かしている。
アカウミガメ	ウミガメネットワーク三重会長	砂浜の減少が、アカウミガメの産卵に悪影響を及ぼしている。2018年、たくさんの子ガメが屋間に巣穴を出て、海へ向かうのを確認している。原因として、砂中温度の高温化を疑っている。
松山瀬干潟の生態系	三重中学校・三重高等学校	南方系のカニであるハクセンシオマネキが増加し、生息場所も広がっている。2019年は、例年、順調に生息していた場所でアマモが枯れた。
防災研究・研修	みえ防災・減災センター	大台ヶ原から尾鷲にかけては全国屈指の多雨地帯であるが、最近、過去に大雨が降ったことのない地域にも大雨が降るようになり、災害はどこでも起こるということを前提に対策を進める必要がある。
自主防災組織	津市自主防災協議会長	行政は温暖化に対応したインフラ整備を進めているが、それだけでは不十分。温暖化を自分事として捉えるような啓発が重要。個人の意識が変われば、行動が変わる。
災害ボランティア	みえ災害ボランティア支援センター(みえ防災市民会議議長)	排水能力を超えた、大雨による浸水被害が増えている。地域毎の事情を反映したインフラ整備が必要。2004年に全国で大規模水害が多発して以降、全国的に水害時のボランティア活動が確立した。

「私たちの暮らしと気候変動 フィールドワーク2019」の全文は、三重県気候変動適応センターのウェブサイトでお読みいただけます。
<http://www.lccac-mie.org/fieldwork/>



ウェブサイトへの掲載



三重県気候変動適応センター

リンク集 | お問い合わせ



三重県気候変動適応センターは、地域における気候変動への適応の取組を促進します。

アプリ

ログイン・三重県気...

検索デスク

トップページ・サイボウ...

アナリティクス

気候変動適応情報ブ...

三重県気候変動通...

かわいいフリー素材集...

三重県立図書館

その他のブックマーク



センターの概要



気候変動と影響



適応策・事例



センター活動記録



お知らせ
(イベント・講演情報)



三重県の取組

新着情報



2020.10.05 気候講演会のご案内



2020.09.28 令和2年度国民参加事業が始まっています。(環境省からの受託事業)



2020.09.23 鈴鹿市生活学校の月例会で気候変動の話をしました。

[lccac-mie.org/鈴鹿市生活学校の月例会で気候変動の話をしまし/](#)



2020.09.07 ネットで楽しく気象を学ぶ。(10.09 動画を追加しました)



2020.08.31 「鈴鹿川のおさかな観察会」で気候変動の話をしました。(2回目)



2020.08.25 ウミガメネットワーク三重の皆さんと津市の砂浜を測量しました。



2020.08.12 気候変動の話、出前いたします。



2020.08.05 「鈴鹿川のおさかな観察会」で気候変動の話をしました。

新着情報一覧へ



lccac-mie.org/initiative/



将来展望

情報収集、普及啓発について、従前どおり実施していく。

- 情報収集（ヒアリング、文献調査）
過去に収集した情報のフォローアップ、新規案件の発掘
- 普及啓発（講演、パネル展示）

これに加え、新たに、以下の事業を実施する。

将来的には、研究関連の情報だけでなく、センターが三重県内の気候変動関連情報全般のハブ的な機能を担うことを目指している。

◆研究者のネットワーク化

三重県内の気候変動関連の取組を促進するため、気候変動に関係のある多様な分野の研究者（大学・研究所）が情報共有、意見交換する場を設ける。

○みえ気候変動影響と適応研究会（11/15開催）

主催：三重大学（生物資源学研究科フューチャーアース推進ユニット）
三重県気候変動適応センター

課題

中長期にわたる運営体制の確立

- 少人数で運営しているため、今後、職員が異動した際の、人的ネットワーク、業務上の知識、ノウハウの継承が困難。
- 安定的な財源がないため、情報収集、普及啓発以外の事業計画が立てづらい。

ご清聴
ありがとうございました



三重県気候変動適応センター
(一般財団法人 三重県環境保全事業団)